

いつもきれいなまちを 女性団体が清掃奉仕活動

平泉商工会女性部や各種女性団体らによるアメニティ道路の清掃活動が6月3日に行われ、参加者59人が草刈りやごみ拾いに汗を流しました。

この清掃活動は観光地平泉のイメージアップに役立てようと、毎年実施しているものです。清掃活動当日は早朝6時に作業を開始し、約1時間かけてきれいに清掃し、駐在所前から中尊寺にかけての歩道はきれいな道路へと生まれ変わりました。



家族らに囲まれ長寿を祝う 鈴木ノブさんが百寿を迎える

鈴木ノブさん(7区)が5月24日、満100歳の誕生日を迎えました。この日は鈴木さんが利用している施設でお祝いの会が開かれ、利用者やスタッフによるハッピーバースデートゥーユーの歌で鈴木さんの百寿を祝福。青木町長から鈴木さんに記念品と花束が贈呈されました。

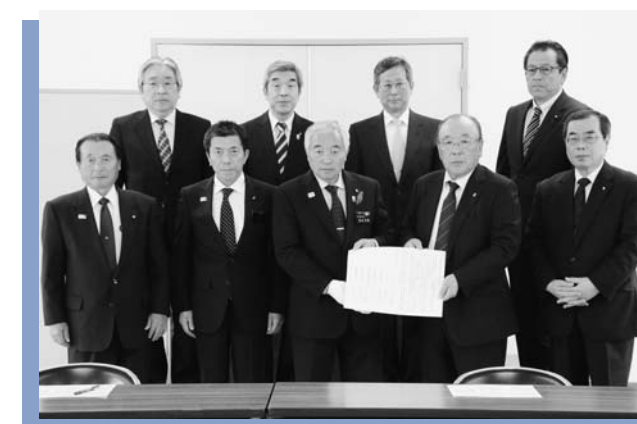
鈴木さんの長女は「粗食で一生懸命稼いだのが長生きの秘訣だと思う」と話し、鈴木さんは家族らのたくさんの笑顔に囲まれて長寿を祝福されました。



相互交流を深めていくことを確認 中国天台県代表团と会談

6月3日、青木町長ら町幹部は町の友好交流都市中国浙江省天台県の陳政明・天台県政治協商会議委員会主席率いる天台県人民政府代表团と観光などをテーマに会談し、相互交流を深めていくことを確認しました。

会談には、両県町の行政幹部、女性団体の代表らが出席。両県町の女性団体の活動、教育などについて情報交換した後、観光客の受け入れ態勢やプロモーション方法など今後の観光振興について発言しました。



新規高卒予定者の求人確保へ 平泉商工会に要請

2018年春の新規高卒予定者に対する求人受け付けが始まるのを前に、平泉町と一関市、県高校長協会一関支会、一関公共職業安定所、県南広域振興局などは5月26日、平泉商工会などの地元商工団体に対して、積極的な採用や早期の求人提出を求める要請を行いました。

新規高卒予定者が県外、管外への就職を希望することが多い状況から、関係者は危機感を持って地元就職促進に向けて協力して取り組んでいくことを確認しました。

たくさんの新鮮な野菜を販売 産直ひろば日曜市オープン

「産直ひろば日曜市」直売の会(千葉なか子会長)による農産物直売所が6月4日、JAいわて平泉平泉支店の倉庫前で2017年度の営業を開始しました

この日はオープンを記念して餅やコーヒーが振る舞われ、野菜や餅などの商品が数多く並び、駆けつけた約50人の買い物客は新鮮な野菜などを買い求めていました。

日曜市は今シーズンで18年目。11月末まで毎週日曜日、午前7時から午前8時30分まで営業しています。



色の異なる苗で巨大な絵を描く ライス・アート in ひらいずみ田植え体験

色の異なる稲で田んぼに絵や文字を描く「ライス・アート in ひらいずみ」の田植え体験(アグリ平泉主催)が5月27日、長島地区の大区画は場で開催されました。

9回目となる今回のテーマは「西行法師と東稲山のさくら花」。参加した町民ら約200人は、素足などで田んぼに入り、稲の植え替え作業に汗を流していました。

ライス・アートは7月下旬に見頃を迎え、稲刈りが終わる10月下旬までは高館橋から眺めることができます。



町内の史跡を歩いて巡る 第10回 IBCラジオ平泉ウォーク

町内の史跡を歩いて巡る「IBCラジオ平泉ウォーク」が6月4日、平泉文化遺産センターを発着点に開催されました。

10回目の開催を記念して俳優の村上弘明さんがゲスト参加。県内外から約600人が参加し、7キロと4キロのコースに分かれて毛越寺や中尊寺、観自在王院跡などを巡り、奥州藤原氏の歴史や文化を肌で感じました。ラジオからは、町内の歴史などを紹介する番組が放送され、参加者は爽やかな天候の下、心地よい汗を流していました。



災害時における要援護者を支援 福祉避難所設置運営の協定を締結

5月31日、町は社会福祉法人稲泉会と幸得会、医療法人三秋会の3法人と福祉避難所の設置運営に関する協定を締結しました。今回の協定締結に伴い、災害時には稲泉会の特別養護老人ホームふくしの里慶泉荘と幸得会の障害者支援施設黄金荘、居宅介護支援センターやすらぎ、多機能型事業所たけとんぼ、三秋会の介護老人保健施設さわなり苑の町内5施設が福祉避難所に指定され、町の要請に基づき各法人が運営する施設で要援護者を受け入れ、支援に当たります。